

流通

東武、宗教団体で新ビジネス 集客サイト新設 収益倍増狙う

東武トラベルは、寺院の情報を集めたポータルサイトを立ち上げた。全国各地の寺院の魅力を取り上げることで、新たな旅行需要を掘り起こす狙い。

団体市場は、インセンティブ旅行などの需要が縮小傾向にあるなかで宗教市場の競争が激化しているといわれ、法要などの大型イベントを見込んだ既存のビジネスとは異なる需要を獲得する。同社の営業収益に占める宗教団体のシェアは1割に満たないものの、団体営業では全体の約2割を占めており、倍増を目指す。

時間的に余裕のある団塊世代のほか、若年層の女性をターゲットと捉え、サイトの名称は「てら旅美人(てらたびびと)」とした。座禅や写経、精進料理、歴史的な建造物、仏像などさまざまなコンテンツを有する寺院の魅力にスポットを当てて、情報発信、ツアーの企画・実施、座禅体験などの手配を行っている。寺院に対してイベント企画のコンサルティングも手掛け、集客を支援する。観光の視点から宗教と接する機会を増やすことで檀家不足の課題解決につなげるほか、営業面で他社との差別化も図る。

集客への意欲を確かめるため、直接寺院を訪問するなどの地道なアプローチを進めており、現在は40カ寺にとどまるものの、3年以内に1000カ寺以上の参画を目標としている。